

学校関係者評価

平成30年度

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <p>・基礎学力の定着に向けた学校としての取組みについて、十分と思われる程できてはいるが、成果として表れていないため、そのことを保護者や地域に対して発信して家庭・地域・学校が同じ方向を向いて取組みを進めてほしい。 ・がんばり学習(放課後)での、漢字や計算の反復学習についての取組みは、今後も継続してほしい。</p>	3
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>・学期に1回行っている生活アンケートは、子どもの実態把握に役立っているため今後も継続してほしい。 ・子ども理解に向けた学校の取組みは高く評価できる。来年度は、親と子どもの関係について、子どもの人権を踏まえた観点で取り組んでほしい。</p>	3
<p>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <p>・1年間欠席無しで頑張った児童を表彰するなど、自尊感情を高める取組みを今後も継続してほしい。 ・子ども達はよくあいさつできるようになっている。保護者にも子ども達のための地域の取組みについて認知し、理解が深まるよう伝えてほしい。 ・地域での活動を、今後は地域学校協働推進委員会を中心に学校の活動とつなげてほしい。</p>	3
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>・一斉メール配信を今年度は、評議員のうち連協会長でもある2人の方にも登録していただいたので、学校の情報(例、非常変災時における対応等)がメール配信を通してよくわかった。よって取組みを評価できる。 ・来年度以降、地域の学校支援ボランティアで行っている下校の見守り計画を見直す必要がある。</p>	3.2
<p>■教育目標</p> <p>・「知をみがく、生活をただす、心を育てる、体をきたえる」子どもの育成に向け、教職員が一丸となって取り組む姿勢が授業や行事の参観を通して感じられる。 ・基本的な生活習慣の確立に向けた保護者への啓発活動や、児童理解をテーマにした講演会など学校教育活動は評価できる。今後も引き続き続けてほしい。</p>	3.2
<p>■研究テーマ</p> <p>・外国語活動・外国語に関して、他市校長会による視察の受け入れや海外の小学生とのスカイプ国際交流、本市PRサイト「尼ノ國」への取組みの掲載など、本校の活動について評価できる。 ・本校の児童が、地域でも英語を使って地域の方に質問していたことから、日常の中に外国語活動・外国語が浸透していることがわかり評価できる。 ・本校の特色ある取組みの一つとしての外国語活動・外国語を今後も続けてほしい。</p>	3.7
■	
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	A